

7年ぶり開催の京都は天王山の戦いが白熱!



今回の勝利で今季は4戦3勝。相変わらずの勝負強さを見せ付けたSC2 梶岡浩選手。

全

9戦で争われる2018全日本ダートトライアル選手権もいよいよ終盤戦に突入した。第7戦の会場は、全日本戦では7年ぶりとなる京都のコスモスパークだ。開催日の7月28日(公開練習)の夜から決勝当日の29日にかけて、近畿地方は、折

しも台風12号の通過と重なり、決勝戦の開催がかなり危ぶまれたが、夜が明ける頃には運良く暴風雨圏から脱出。何とか事なきを得て予定通り全車2本ずつのタイムトライアルで競技がスタートした。

台風一過。強風は収まり、雨は上がったもの

の、第1ヒートスタート時のコスモスパークは完全なウェットコンディション。その後も、晴れ間が広がり、夏の日差しが照ったかと思えば、急ににわか雨が降る不安定な空模様が続き、第2ヒートに入っても路面は思うように回復せず、前半の出走のクラスでは、ぬかるんだ路面に足を取られ、タイムを落とす選手が相次いだ。

6名の全日本チャンピオン経験者が

PN1クラス／1.2.第3戦から4戦連続表彰台の山崎利博選手は待望の2勝目をゲット。3.前戦野沢から2連勝を狙った上野倫広選手だったが、3位にとどまる。4.CR-Zで孤軍奮闘の児島泰選手は今季2度目の2位入賞。





PN2 & N1クラス／5.6.11.PN2の若手対決は2ヒートとも他を圧するタイムを叩き出した細木智矢選手(5.6右.)が3勝目をマーク。宝田ケンシロー選手(6左.11.)は2位キープでシリーズ首位は維持。7.北海道の星野幹男選手がN1で3位。8.九州の濱口龍一選手がPN2で3位。9.10.コスモスがホームコースのN1岡翔太選手。負けられない1戦を大差で制した。12.北陸の森大士選手がN1で2位入賞。



SA2&SC2クラス／13.鎌田卓麻選手はSA2で2位に入り、WRXでの初のチャンピオンを確定。14.開幕戦に次ぐ2勝目を狙ったSC2田口勝彦選手だったが2位にとどまった。15.16.ヒート1のタイムで逃げ切った黒木陽介選手はSA2移籍後初の1勝をマーク。17.SC2で今季3勝目獲得の梶岡悟選手。18.関東の熊川嘉則選手がSC2で3位入賞。19.SA2の3位はマイケル・ティー選手。

名を連ねる激戦のPN2クラスは、ヒート1が終わって、トップ・細木智矢選手、2位・宝田ケンシロー選手、3位・濱口龍一選手の順。ヒート2に入ってもこのオーダーは変わらず、細木選手が勝って今シーズン3勝目。同じく、今シーズンこれまで3勝を挙げポイント争いで首位を走る宝田選手に食らいついた。

「2本目の路面でタイムアップはちょっと無理。1本目でまずまずのタイムを残せたことが今回は何よりの勝因です。ただ、勝ってもポイント争いでは追い込まれていることに変わりなく、気は抜けません」とウィナーの細木選手。一方、シリーズをリードする宝田選手は「今日の路面はタイヤ的にも相性が悪くて、細木君のタイムには到底かなわない気がしていました。次は得意な今庄、気を引き締めて、シリーズを決めに行きたい」と決意を新たにす。注目の

同世代ライバルの戦いはますます面白く、一段と目が離せないものになってきた。

今シーズンはランサーのワンメイクとなったN2クラス。4WDのトラクションをもってしても、これまた上位陣の大半がヒート1のタイムを超えられない重苦しい展開。ヒート1トップの好調な岸山信之選手さえも、ヒート2では結局2秒以上タイムを落としてゴールラインを通過した。誰もがこれで決まりかと思った矢先、最終出走の北條倫史選手が、岸山選手の1本目の中間を1秒上回るタイムで通過する。にわか沸き立つギャラリ席。その後も北条選手はタフな路面をものともしない安定感たっぷりの走りでゴール、自身の1本目を1.6秒も縮める奇跡の大逆転勝利を演じ、同時にこの時点でシリーズチャンピオンを確定させた。

「昨シーズンは、最終戦でまさかの大逆転負け

を食らったので、早めに決められてホッとししました。何だかんだ言っても、かなりトラウマっていましたから(笑)。ようやく元の自分に戻れた感じ」。そう話す北条選手は朝の慣熟歩行の時から2本目が勝負と決めていたと語った。

続くSA1クラスは、1、2戦を連勝した後、低迷し、前戦で再び勝ちを収めた小山健一選手が、取り戻した勝負勘をきっちり継続させて今回も首位を獲得、こちらもシリーズチャンピオンを決めている。「勝ちを意識すると自分はミスしがち。肩の力を抜いて走れる1本目で2秒のアドバンテージを得たのが大きかった」と小山選手は戦いを振り返った。

一方、「シリーズ2位獲得に向け、自分の戦いはまだまだこれから。最後まで気を引き締めて頑張りますよ」と話すのは当日クラス2の稲葉幸嗣選手。第3戦を制した崎山晶選手は、この



23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

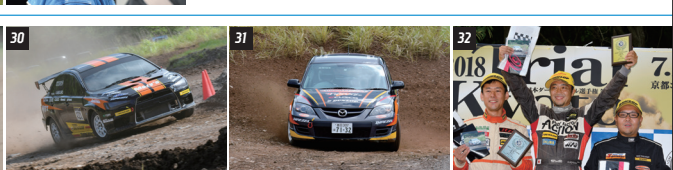
98

99

100



N2&SC1クラス／20.23 各車、タイムダウンの中、ミラクルなタイムアップを遂げた北條倫史選手が優勝で王座奪回を決めた。**21.**セリカで奮闘するSC1則信重雄選手が今季最上位の2位ゲット。**22.**N2岸山信之選手は最後で逆転を許し、シーズン2勝めはならず。**24.**地元の矢本裕之選手はN2で3位獲得。**25.**関東の深田賢一選手がSC1で3位入賞。**26.27.**タイトル防衛を狙う山崎迅人選手はホームコースで貴重な勝利をゲット。



SA1&Dクラス／28.29.前戦でタイトル確定の谷田川敏幸選手は手綱を緩めず、3連勝。**30.**Dの若手、目黒亮選手は3位に入賞。**31.**SA1の3位には崎山晶選手が入賞。**32.35.**SA1は小山健一選手(**32**中**.35**)がヒート1のスーパーベストで逃げ切って初の全日本タイトルを確定した。**33.**SA1の2位には稲葉幸嗣選手が入賞。**34.**Dの2位には宮入友秀選手が食い込んだ。



日は3位。「門前で転倒して以降、クルマの調子がイマイチな中、この結果は御の字です」。今後このクラスはシリーズ2位争いが見ものだ。

今季に入りマシンの箱替えをしたディフェンディングチャンプの山崎迅人選手と、ここまでシリーズリーダーの奥村直樹選手が激しく競り合うSC1クラスは、奥村選手がヒート2途中、痛恨のマシントラブルで戦線離脱。門前、野沢に続いて山崎選手が勝利し、奥村選手が無得点に終わったことからポイント争いも逆転、山崎選手がシリーズチャンピオンに逆王手をかけた。

「ここは地元だし、意地でも負けられないコース。ま、勝てて良かったですわ。シーズン当初

は、マシンのセッティングが決まらず手こずったけど、もう大丈夫。今回の優勝でポイントも逆転できたはずだし、次の今庄も勝ってタイトルを決めたい」とウィナーの山崎選手。2番手には則信重雄選手、3番手には深田賢一選手がつけ、ともにシリーズ3位が狙える位置にいる。

コンスタントにポイントを積み上げる田口勝彦選手がシリーズをリードするSC2クラスは、乾き始めた路面をいち早く見抜き、ヒート2でドライ用タイヤを選んで勝負に出た田口選手がヒート1トップの梶岡悟選手を上回るタイムをマークし見事、逆転。久々の優勝か、と思いきや最終出走の梶岡選手が再度、田口選手を上回るタイムを叩き出し、今季3度目を獲得。

「ドライタイヤはアタリ。行けたと思ったけど、あれで負けたら、まあ、仕方ないですね」と話す田口選手。一方、鬼気迫る走りシリーズチャンプの可能性を死守した梶岡選手は、「迷った挙句、自分は1本目と同じウェット用タイヤを選択しました。スタートを前に、一気に路面が乾き出してダメかと思ったけど、ま、なんとか前に出られてよかった。ただ、まだ4戦しか出ていない自分は、勝ってもポイント争いでは後がない状況に変わりはないです。このゼッケン(シードゼッケン)だけはなんとしても欲しいので、残り2戦も全力でいきますわ」。百戦錬磨の大ベテランの辞書に諦めという文字はない。